

<無線綴じ本の修理> (三つ目綴じ)

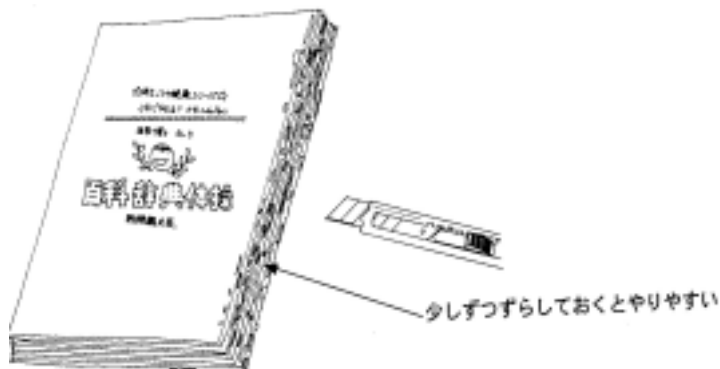
無線綴じの本のページがバラバラ外れてきた場合の修理について紹介する。ただし、ここで紹介するのは、三つ目綴じができるような本、すなわちノド部の余白がある程度(15mm程度以上)ある本である。

また、無線綴じといっても構造は種々あるが、代表的なものについての修理方法については、『防ぐ技術・治す技術』p.75を参照してほしい。

ここでは、『防ぐ技術・治す技術』で紹介できなかった2つの方法(概略)について紹介する。これらの方法についても各工程の詳細については『防ぐ技術・治す技術』を参考にしてほしい。

【例1概略】

表紙の背から中身のページを外して、一枚ずつバラバラにする。
外したページに付着している接着剤の滓をきれいに削ぎ落とす。

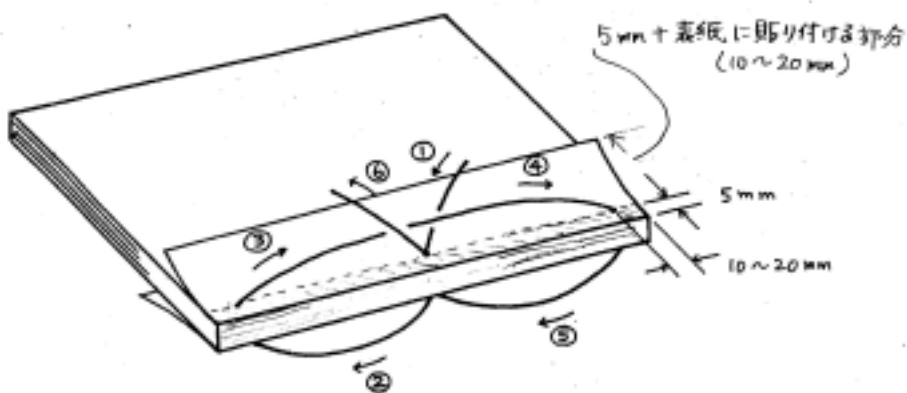


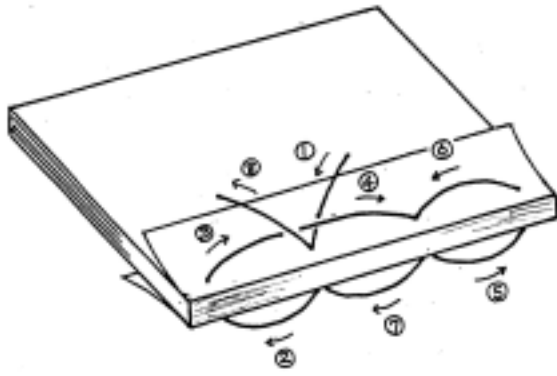
仮固めする。

裏打ちキャラコ(あるいは6匁程度の和紙)を表と裏のページに貼る。のりしろは背側5mm程度。

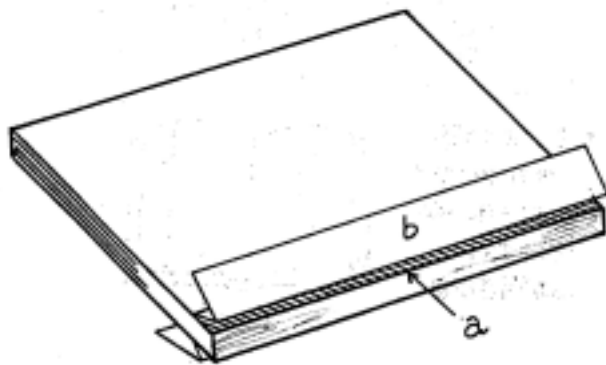
三つ目綴じする。

A5、B6判ぐらいは三つ目でよいが、A4、B5判ぐらいになると四つ目にした方がよい。

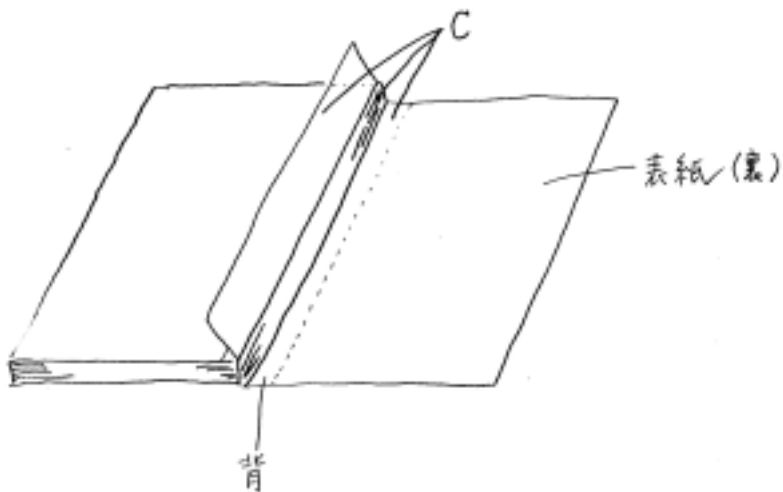




裏打ちキャラコ(あるいは6匁程度の和紙)を、糸綴じたところから折り返し、
下図のa部分を糊付けし、さらに図のように折り曲げておく。



図のb部分に糊を塗り、表紙に付ける。(表表紙から付けるようにした方がよい)
次に、ひっくり返して、下図のc部分に糊を塗り、表紙を被せて貼る。

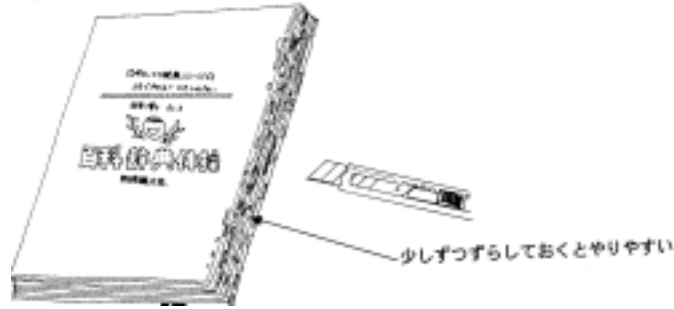


< 無線綴じ本の修理 > (三つ目綴じ)

【例2 概略】

この方法は例1を簡単にしたものである。例1に比べて強度が若干劣る。

表紙の背から中身のページを外して、一枚ずつバラバラにする。
外したページに付着している接着剤の滓をきれいに削ぎ落とす。

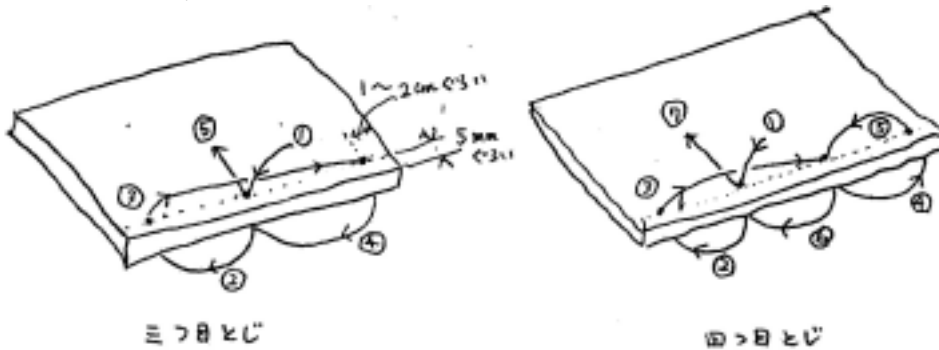


一番最初(上)のページと最後(下)のページを別にしておく。

残りの部分を仮固めする。

を三つ目綴じする。

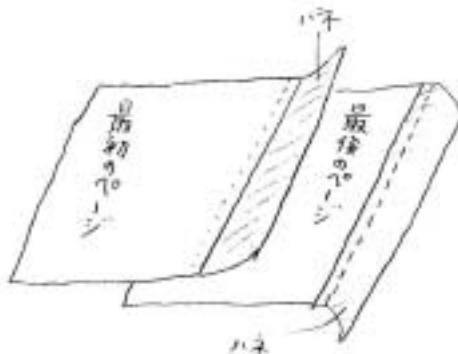
A5、B6判ぐらいは三つ目でよいが、A4、B5判ぐらいになると四つ目にした方がよい。



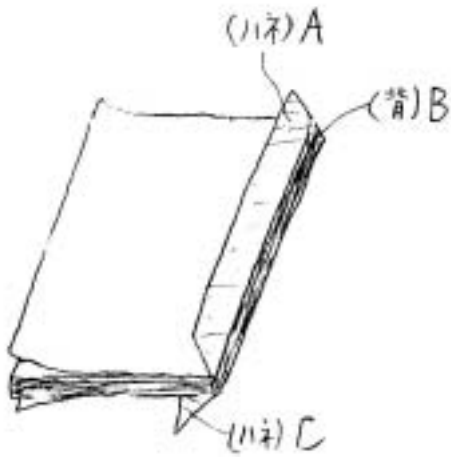
で別置しておいたページに、足を付ける要領で裏打ちキヤラコ(あるいは6匁程度の和紙)を貼る。

のりしろは5mm程度。また、足となる部分(ハネ)の部分は10~20ミリ程度。この部分は表紙の裏側に貼り付けるので寸法はそのことを考慮して決めることになる。

裏から巻くように貼ると丈夫になる。



の2枚を、見返しのように の本体に貼る。のりしろは の縦じ糸が隠れる5ミリ程度。



図のA部分に糊を塗り、表紙に付ける。(表表紙から付けるようにした方がよい)

次に、ひっくり返して、下図のB・C・D部分に糊を塗り、表紙を被せて貼る。

